

## 「医療的な手助け」を信条に患者さんとよく相談し治療を進めています

### 整形外科 高橋 直美

整形外科の高橋直美です。以前も当院で勤務しておりましたが、産休を頂き、2021年4月に非常勤、9月から常勤として復帰しました。一般整形を担当させて頂いており、専門としているのは骨折を中心とした外傷、小児整形とリウマチ疾患です。患者さんとよく相談し、困っていることやしんどいことを少しでも減らしていけるよう、そして良い方向へ進めるよう、『医療的な手助け』をすることを心掛けています。

一般整形では、外傷や褥瘡の治療のほか、腰や肩、首が痛いなど様々な痛みに対してファーストタッチで診療し、他の領域は専門分野の医師とチーム医療で治療にあたらせていただきます。

小児整形では、乳幼児から青年期を対象に運動器に関する疾患や怪我の治療を行います。大きな特徴はやはり、大人と異なり、骨・筋肉・関節等が成長することです。さらには、成長期に特有の疾患があること。そして先天性の疾患を対象とすることです。治療にあたっては、経過を診ながら長期にわたってお付き合いさせて頂きます。

リウマチについては、当院はリウマチセンターを擁しており、内科の益田先生・駒野先生らと協力し、外科と内科の両面で治療を進めさせて頂きたく考えです。

### 所属学会・認定医

- ◇日本整形外科学会 認定専門医
- ◇日本リウマチ学会 認定専門医
- ◇日本手外科学会
- ◇日本小児整形外科学会
- ◇日本リハビリテーション学会
- ◇創外固定・骨延長学会

### 略歴

- 2006年 北里大学医学部卒業
- 2006～2008年 藤沢市民病院（初期研修）
- 2008～2009年 星ヶ丘厚生年金病院
- 2009～2011年 香川県立中央病院 整形外科
- 2011～2013年 かがわ総合リハビリテーション病院 整形外科
- 2013～2014年 屋島総合病院 整形外科
- 2014～2021年 聖ヨゼフ医療福祉センター 整形外科
- 2021年～ 現職

### 高橋 直美 プロフィール



患者さんと医師とが協働し  
目標に向かって一緒にやっていく  
姿勢が重要です

循環器センター長  
高橋 衛

# きづな

地域連携情報誌 No.21

## 高橋 衛 プロフィール

### 所属学会・認定医

- ◇日本循環器学会 認定循環器専門医
- ◇日本心血管インターベンション学会 認定専門医
- ◇日本内科学会 認定内科医

### 略歴

- 1980年 京都大学医学部卒業 京都大学附属病院内科研修医
- 1981年～1985年 市立島田市民病院内科
- 1985年～1989年 京都大学医学部大学院 循環器内科
- 1989年～1995年 寿尚会洛陽病院 心臓センター
- 1995年～2020年 親友会島原病院 院長
- 2020年～2021年 令寿会しまばら病院 院長
- 2021年～ 現職

患者さんの話をよく聞き、十分な説明を心掛け  
考え方・生き方に応じた適切な治療を薦めます

2021年9月1日に赴任した高橋衛です。循環器内科として外来診療を行うほか、循環器疾患のある入院患者さんを診させていただこうと考えています。例えば高齢の患者さんの場合は、何らかの循環器系の疾患があったり、高血圧であることも少なくありません。中には心疾患が隠れていたり、脚の血管が詰まっている場合もあると思いますので、必要があればマネジメントをさせていただきます。外来・入院ともに、冠動脈CT検査やカテーテル検査が必要なケースがありましたら、京都駅前の康生会武田病院をはじめ武田病院グループ各施設と連携しフォローを行ってまいります。

近年、生活習慣病が急増しており、そこから引き起こされる高血圧・高脂血症などは、心臓や血管にとって大きなリスクとなります。これには早めの医療介入で状態をコントロールすることが重要です。複数の治療法のメリット・デメリットを十分にご説明するとともに、患者さんのお話をよくお聞きし、その生活スタイル・考え方・生き方に応じた適切な治療法を薦めるよう心掛けています。

患者さんと医師とが協働し、「目標に向かって一緒にやっていきましょう」という姿勢で治療に臨みますので、どうぞ宜しくお願いします。

### 患者サポートセンターから

このたび、新たな循環器内科医師をお迎えし、循環器センターを開院いたしました。心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈、弁膜症、動脈硬化、高血圧、睡眠時無呼吸症候群などの疾患に対応いたしますのでお気軽にご相談ください。従来からのリウマチセンター（骨粗鬆症外来）、人工関節センター、手外科センターに加え専門的医療を提供させて頂くと共に地域の先生方と協力し、更なる円滑な地域医療連携に努めてまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

### 患者サポートセンター

TEL 075-671-2523 (直通)

FAX 075-671-2654 (直通)

8:30～17:00 日曜日・祝日・祭日・年末年始除く

#### 理念・基本方針

- 1.地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
- 2.プライバシーの尊重と心のふれあいを大切に、利用される皆様患者さんとの良い信頼関係を築きます。
- 3.安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
- 4.私たちは、病院という生命に直接関わる職場に勤務することを自覚し、生きがいと誇りの人間性豊かな医療人をめざします。



十条武田  
リハビリテーション病院



患者サポートセンター

# 循環器内科よくある質問

Q お薬はなるべく飲まない方がいいのでしょうか？

A 「少々血圧が高くても薬は飲まない方が良い」と考えている人が極めて多いのですが、これは大きな間違いです。

高血圧を放置すると、心筋梗塞や狭心症、心肥大、冠動脈硬化の大きなリスクとなります。心臓病だけではなく、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血のリスクも増すのです。このため、薬を使ってでも高い血圧は下げないといけません。これをご理解いただいた後は、食事・運動を含めた生活スタイルを良い方向にしていけることです。こうした生活習慣の改善は薬を飲みだしてからでも構いません。その後、血圧が下がれば薬を軽減したり、中止できることもあります。一番大切なのは高い血圧を様々な方法で下げていくことです。

Q 血管が狭くなっていたり、詰まっている場合は手術が必要ですか？

A 急性冠症候群（ACS）など、救急救命が必要な場合はカテーテル治療など迅速な対応が必要です。

これに対し、病状が安定している慢性期の治療は、「冠動脈のカテーテル治療」と「最適な薬物治療」とも予後があまり変わらないということが分かっています。やはり症状であるとか、その方の病変による虚血の状態をよく評価しなければなりません。そして、患者さんとよくコミュニケーションをとり、ご納得のうえで適切な治療を選択することが重要です。

Q 薬物が良くなっているのなら投薬治療の方が良いのでしょうか？

A 患者さんの病態にもよりますし、医療は常に進化を続けておりますので、一概には言えません。

例えば「薬物溶出ステント」というものが登場しており、血管狭窄の治療後に再狭窄することが極めて少なくなっています。当科では、最新の知見に基づき治療のアドバイスをさせていただきます。



医療者と患者さんが一緒になって治療を行う

# 循環器センターのご紹介

循環器センター長  
高橋 衛

循環器（心臓や血管など血液・体液を循環させる器官）を対象としています。心筋梗塞・狭心症・心不全・不整脈・弁膜症などの心臓疾患、動脈硬化、動脈瘤、高血圧などの治療を行っています。これらの疾患は、生活習慣と密接な関わりがあるため、食事や運動など生活習慣の改善が治療に欠かせません。それには患者さんのライフスタイルや考え方をお聞きし、ご納得いただくことが重要です。当科は「医療者と患者さんが一緒になって治療を行う」ことを基本方針としています。

診療  
外来診療では、循環器系の疾患の診断および初期治療を行い、必要なら入院加療を行っています。  
重症心不全や急性心筋梗塞、重篤な不整脈など、CCU（心臓疾患集中治療室）管理を要する救急疾患の場合は、密接に連携している康生会武田病院にモービルCCUで搬送するシステムを確立しています。  
当地域において、リスクの高い方の疾病予防、罹患されている方の重篤化予防・治療改善、そして術後の方の再発予防に力を注いでいます。

症状  
「胸痛」「息切れ」「動悸」など症状のある方は、狭心症や心筋梗塞、心不全や弁膜症の可能性もありますので、早めの受診をお勧めします。また健康診断等で「高血圧」を指摘されている方も早めに受診し、血圧の改善を図っていただくことが大切です。  
お気軽にご相談下さい。

